

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	31	世界自然遺産保全・適正利用推進事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	1-(2)-7-①			
				世界自然遺産や自然公園の適正管理			
担当部課名	環境部 自然保護課	事業実施 (予定)年度	H25~R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-10-(1)		
事業内容	<p>世界自然遺産に登録された沖縄島北部及び西表島において、ユネスコの諮問機関であるIUCNの勧告への対応や定期審査等も見据えながら、自然環境や生物多様性の保全と適正利用を推進するため以下の取組を行う。</p> <p>(1) 沖縄島北部におけるオーバーツーリズム対策及び地域活性化 世界自然遺産登録地における観光の過剰利用の抑制や環境と調和した地域活性化を図るため、遺産地域の周辺管理地域への計画誘導や世界自然遺産ブランドを活用した取組等を推進する。</p> <p>(2) 沖縄島北部の森林域におけるノネコ等対策 沖縄島北部(国頭村、大宜味村及び東村)において、希少野生動物の生存の脅威となっているノネコ等の現況調査や捕獲・保護、譲渡を行うとともに、その発生源対策として犬猫遺棄防止に係る普及啓発を行う。</p> <p>(3) 希少野生動物交通事故・密猟防止対策(沖縄島北部) 密猟・盗採防止に向けた森林内パトロールや来訪者向けの普及啓発、交通事故防止に向けた視認性向上のための効果的な除草手法の検討などを実施する。</p> <p>(4)-Ⅰ 遺産地域の管理支援及び西表島の保全と適正利用の両立 遺産地域の適切な保全管理のため、地域別行動計画の進捗確認や見直し等行う。また、西表島観光管理計画に基づくオーバーツーリズム対策に取り組む。</p> <p>(4)-Ⅱ 西表島におけるエコ認証制度の構築に向けた検討 エコ認証制度の運用による西表島の観光負荷の低減、観光による多面的価値の創出、責任ある観光と観光による地域貢献の推進に取り組む。</p> <p>(5) イリオモテヤマネコの交通事故防止対策 イリオモテヤマネコの交通事故防止対策の検討及び普及啓発に取り組む。</p> <p>(6) 世界自然遺産の普及啓発 世界自然遺産の価値とその保全の重要性等について、次世代を担う児童生徒へ環境教育等を行うとともに、県民及び観光客へPRを行う。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】	予算の状況	(a) 当初予算額	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度
		(b) 予算現額	372,280		336,272		290,876
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	372,280	0	336,272	0	290,876
	B. 執行済額		371,620		335,713		290,514
	うち交付金充当額		297,296		268,570		232,411
	C. 次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.8%		99.8%		99.9%
	予算の状況の説明		<p>・世界自然遺産に登録された沖縄島北部及び西表島において、ユネスコの諮問機関であるIUCNの勧告への対応や定期審査等も見据えながら、自然環境や生物多様性の保全と適正利用の推進を図るための経費として、委託料及び事務的経費(旅費、需用費、使用料及び賃借料)を計上した。</p> <p>・執行率は99.9%であり、概ね計画的に執行できた。</p>				

活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)	進捗状況				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	(1) 観光客の計画的誘導及び地域活性化の 具体的手法の検討・構築(北部3村)	目標	—	北部3村	北部3村	北部3村
		実績	—	北部3村	北部3村	北部3村
	(2) ①沖縄島北部の森林域における捕獲 作業の実施 ②犬猫遺棄防止対策認知度(80%以上)	目標	—	—	—	①実施 ②80%以上
		実績	—	—	—	①実施 ②77%
	(3) 森林内のパトロールの実施(180回)	目標	—	180回	180回	180回
		実績	—	185回	183回	183回
	(4)- I 地域部会の運営(各2回)	目標	2地域	2地域×各2回	2地域×各2回	2地域×各2回
		実績	2地域	2地域×各2回	2地域×各2回	2地域×各2回
	(4)- II 検討委員会の開催(2回)	目標	—	—	2回	2回
		実績	—	—	3回	2回
	(5) アンダーパス等設置検討会の開催(2 回)	目標	—	2回	2回	2回
		実績	—	2回	2回	2回
	6 環境学習の開催(2回以上)	目標	—	—	—	2回以上
		実績	—	—	—	4回
	【参考(～R3まで)】 ①周辺地域における計画誘導に向けた地元 関係団体の連携支援(沖縄島北部・西表島) ②世界自然遺産地域振興モデル事業に向け た地元関係団体との連携支援(北部3村)	目標	①2地域 ②北部3村(モデル 事業実施)	—	—	—
		実績	①2地域 ②北部3村(モデル 事業実施)	—	—	—
	【参考(～R3まで)】 ①やんばる地域(国頭村、大宜味村及び東 村)におけるノイヌ・ネコの捕獲・排除、捕獲 したノネコの譲渡 ②犬猫遺棄防止等に係る普及啓発の実施	目標	①ノイヌ・ネコの捕 獲・排除、捕獲したノ ネコの譲渡 ②実施	—	—	—
		実績	①ノイヌ・ネコの捕 獲・排除、捕獲したノ ネコの譲渡 ②実施	—	—	—
	【参考(～R5まで)】 ①沖縄島北部におけるノネコ捕獲数 ②犬猫遺棄防止対策認知度	目標	—	①30頭以上 ②80%以上	①30頭以上 ②80%以上	—
		実績	—	①18頭 ②82%	①16頭 ②78%	—
	【参考(～R3まで)】 地域別の行動計画の検証及び見直し	目標	2地域	—	—	—
		実績	2地域	—	—	—
	【参考(R3～R4)】 西表島観光管理計画の改定	目標	西表地域部会にお ける観光管理作業 部会の設置	計画改定	—	—
		実績	西表地域部会にお ける観光管理作業 部会を設置した	計画改定	—	—
	【参考(～R5まで)】 フィールド観察会の開催(4回以上)	目標	—	4回	4回	—
		実績	—	2回	3回	—
	【参考(～R3まで)】 遺産登録に向けた幅広い連携を促すため、 地域住民や地元企業と連携した機運醸成に 取り組む	目標	実施	—	—	—
		実績	実施	—	—	—
進 捗 状 況 説 明	(1) 周辺地域における計画誘導や地域活性化に向けて、地元関係団体と連携し、新たな観光コンテンツの検討・造成を行ったほか、世界自然遺産フェアの開催やSNS等により世界自然遺産や地域の魅力を発信する取組等を実施した。(北部3村) (2) やんばる地域においてノイヌ・ネコの現況調査及び捕獲を実施するとともに、ノイヌ・ネコの発生源対策として犬猫遺棄防止のための普及啓発を実施した。 (3) 森林内パトロールを183回、県警との合同パトロールを2回実施するとともに、効果的な除草手法を検討し実施した。 (4)- I 各地域部会を開催し(沖縄島北部2回、西表島2回)、地域の関係団体等と協議しながら、地域別行動計画に係る事業進捗の確認を行うとともに、地域別行動計画の検証及び見直しを行った。 (4)- II 検討会2回のほか、島内公民館長との意見交換を実施し、制度の在り方や課題を整理した。 (5) アンダーパスの設置を含め、イリオモテヤマネコの交通事故対策を検討するため、有識者検討委員会を2回開催した。 (6) 遺産登録地域を含む圏域の小中学生を対象とした環境学習「自然体験学習ツアー」及び図画コンクールを実施したほか、優秀図画作品を活用した航空機のラッピング広告、HPIによる情報発信等を行った。					

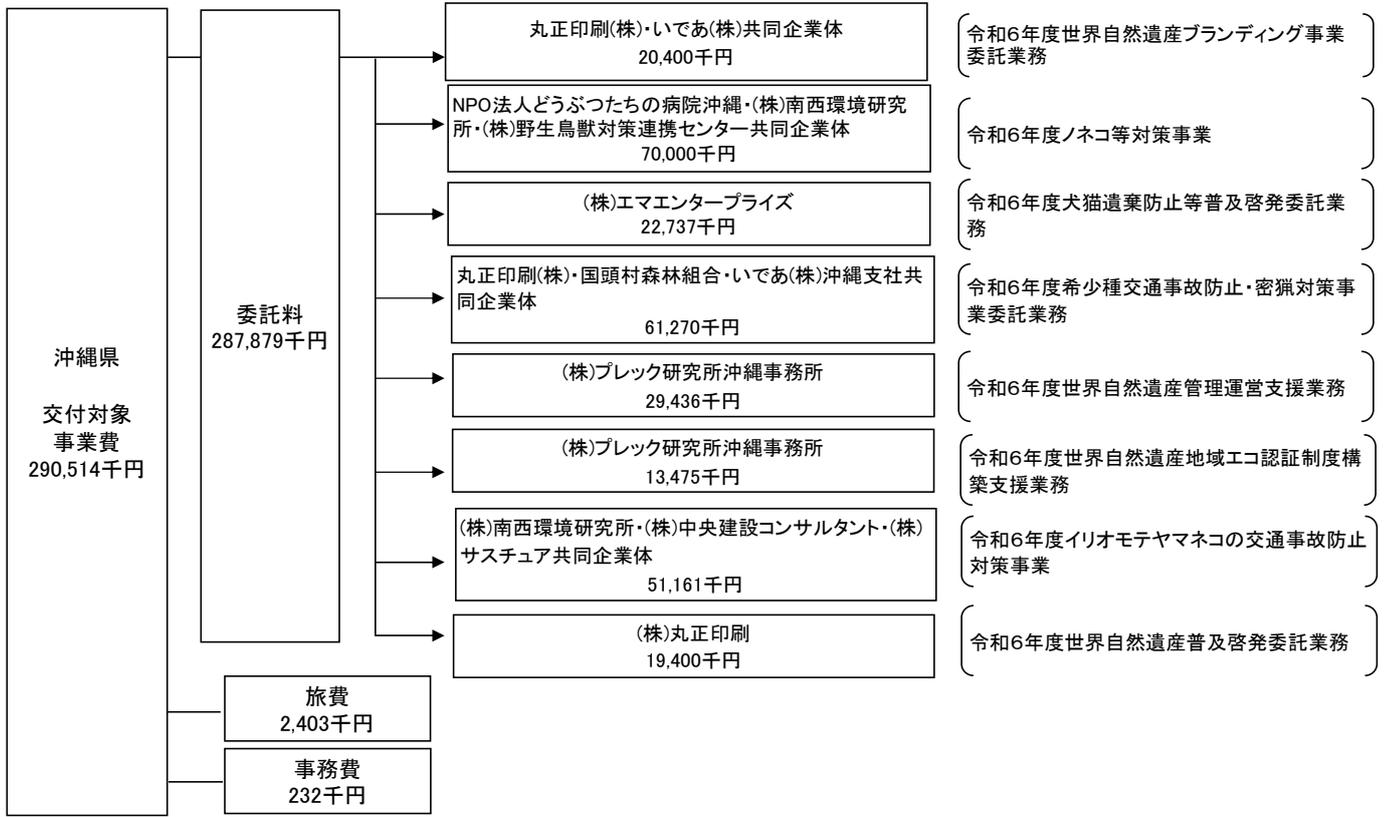
R6成果目標(指標)		基準値	R4年度	R5年度	R6年度	目標値
		(〇〇年度)				(〇〇年度)
(1) 周辺地域への計画的誘導を図るための観光コンテンツ1件以上	目標		—	—	1件以上	
	実績		—	—	1件	
(2) ヤンバルクイナの推定生息範囲(220メッシュ以上)	目標		220メッシュ以上	220メッシュ以上	220メッシュ以上	
	実績		220メッシュ	214メッシュ	232メッシュ	
(3) 密猟・盗採防止のためのパトロール実施結果・トラップの発見率(世界自然遺産推薦地モニタリング計画評価A以上) ※「評価A」とは、遺産価値への悪影響又はそのおそれがない。又は、現在、遺産価値に軽微な悪影響又はそのおそれが認められるが、現行の取組で改善していける見込みがある状況のこと。	目標		—	評価A	評価A	
	実績		—	評価A	評価A	
(4)-I① IUCNからの勧告事項や指摘事項等に対応するための地域別の行動計画の検証・見直し完了(各1回)	目標		各1回	各1回	各1回	
	実績		各1回	各1回	各1回	
(4)-I② 西表島の年間入域観光客数33万人以内	目標		—	—	33万人以内	
	実績		—	—	25.9万人	
(4)-II エコ認証制度ガイドライン(案)の策定	目標		—	—	策定	
	実績		—	—	策定	
(5) イリオモテヤマネコの交通事故発生状況(世界自然遺産推薦地モニタリング計画評価A以上)	目標		—	評価A	評価A	
	実績		—	評価B	評価B	
(6) 遺産地域内小中学校への環境教育実施率70%以上	目標		実施率70%	実施率70%	実施率70%	
	実績		実施率46%	実施率27%	実施率19%	
【参考(R3~R4)】 密猟・盗採防止の痕跡となるワナの数 25件以下/年	目標		25件以下	—	—	
	実績		1件	—	—	
【参考(R4)】 西表島の年間入域観光客数33万人以内	目標		33万人/年	—	—	
	実績		23万人/年	—	—	
【参考(R4~R5)】 遺産コアエリア(与那覇岳、伊部岳)への入域者(登山者数)の急激な増加の抑制:3,000人以下	目標		3,000人以下	3,000人以下	—	
	実績		2,450人	5,855人	—	
【参考(R5)】 西表島の年間入域観光客数・前年度の増減1割以内(世界自然遺産推薦地モニタリング計画評価A以上)	目標		—	評価A	—	
	実績		—	評価A	—	
【参考(R5)】 エコ認証制度構築のための検討会の開催(2回)	目標		—	2回	—	
	実績		—	3回	—	
達成状況説明	<p>(1) 周辺地域への計画的誘導を図るための観光コンテンツの造成に向けて、北部3村において地元関係団体と連携し、検討を行い、東村において早朝自然観察ツアーのモニターツアーを実施し、1件のコンテンツを造成することができた。</p> <p>(2) ヤンバルクイナの推定生息範囲については、232メッシュとなり目標を達成した。やんばる地域におけるノネコの現況調査で確認できたノネコの個体数は41頭、捕獲数は19頭となり、令和2年度以降大幅に減少していることから、対策がノネコの生息密度の低下に繋がっていると考えられる。ノイヌについてはノイヌと判断されるイヌの出現はなく、捕獲は0頭となった。また、犬猫遺棄防止対策の認知度は77%となったものの、令和6年度に重点的に普及啓発を行った猫の完全室内飼養の重要性についてはアンケート調査の結果、理解度をあげることができた。ヤンバルクイナの生息範囲拡大に向け引き続きノネコ等対策や犬猫遺棄防止対策を継続する必要がある。</p> <p>(3) 森林内パトロール中での密猟・盗採の痕跡及びトラップ設置の確認件数は低水準を維持しており、モニタリング計画はA評価となり、目標を達成した。</p> <p>(4)-I① 西表島への入域観光客数は前年度から微増しているが(25万人台)、33万人を下回ったことから、モニタリング計画はA評価となり、目標を達成した。</p> <p>(4)-I② 沖縄島北部及び西表島の各地域部会等を通じて関係者間での協議を踏まえ、地域別行動計画の検証・見直しを各1回完了し、目標を達成した。</p> <p>(4)-II 制度構築に向けては課題が多く、検討を重ねる必要があったことから、検討会を2回と、公民館長らとの意見交換をほぼ全地域で実施したことにより、結果として目標を達成した。</p> <p>(5) イリオモテヤマネコの交通事故発生防止に向けては、各種調査や関係機関との調整も踏まえ、ドライバーへの普及啓発や新たな交通管理措置の検討に引き続き取り組む必要がある。なお、令和6年のイリオモテヤマネコの交通事故は0件を達成した。</p> <p>(6) 令和5年度より環境教育の募集対象を遺産地域を含む北部圏域、八重山圏域まで拡大して実施したため、遺産地域内小中学校への環境教育実施率については19%となったが、参加者数は令和4年度35組、令和5年度75組、令和6年度81組と増加している。</p>					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・世界自然遺産登録後も、6年毎の定期審査を見据え、その登録基準を満たし、恒久的に保護・保全を図る必要があるため、継続して、自然環境や生物多様性の保全と適正利用を推進する。</p> <p>・世界自然遺産地域の自然環境を保全するために、引き続き国や地元自治体や関係団体等と連携し取り組む必要がある。</p> <p>・令和3年7月の遺産登録の際に受けた4つの要請事項に対して、令和4年12月にユネスコ世界遺産委員会へ提出した保全状況報告書に基づき対応を進める。</p>	<p>(1) 沖縄島北部における周辺管理地域への計画的誘導及び環境と調和した地域活性化に向けて、地元関係団体と連携し、令和6年度の取組内容を踏まえた効果的な取組の実施。</p> <p>(2) やんばる地域における野生化したノイヌ・ノネコによる希少野生動物捕食被害の防止のため、より効果的なノイヌ・ノネコの発生源対策を検討する必要がある。</p> <p>(3) 希少野生生物の交通事故多発地点や密猟用ワナが確認された地点を中心にしながらも、広域的にロードキルや密猟等の対策を講じる。</p> <p>(4)- I 西表島における観光管理のため、来島予定者に届く形で適切に情報発信を行うとともに、地域との協働による遺産地域の保全・管理に取り組む。</p> <p>(4)- II 既存の認証等制度を参考にしながらも、西表島の住民等にも受け入れられる形でグッドプラクティスを認証等する制度を構築する。</p> <p>(5) 国内希少種イリオモテヤマネコのロードキルの防止に向け、効果的な交通管理措置を検討する必要がある。</p> <p>(6) 環境教育の実施にあたっては、地域行事等を考慮した開催時期を検討するとともに、児童生徒の世界自然遺産に対する関心や理解が深まるよう、プログラムの内容を工夫する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・IUCNの勧告への対応や、遺産価値の保全と適正な利活用を図っていくために、引き続き以下の課題に取り組む必要がある。</p> <p>(1) 沖縄島北部における周辺管理地域への計画的誘導及び環境と調和した地域活性化に向けて、地元関係団体と連携を図りながら、令和6年度の取組を活かし、観光コンテンツの造成に向けた取組や地域の魅力情報発信等の取組を実施する。</p> <p>(2) やんばる地域における野生化したノイヌ・ノネコによる希少野生動物捕食被害の防止のため、ノイヌ・ノネコの発生源対策としてより幅広い世代に対して犬猫の遺棄防止や適正飼養等の普及啓発を実施する。</p> <p>(3) 沖縄島北部における希少野生生物の交通事故対策について、道路管理者や地域住民と協働して取り組む。密猟等対策として、パトロールや通行止め実証実験を継続するとともに、地域住民にも理解や協力が得られるよう、より一層効果的な普及啓発に取り組む。</p> <p>(4)- I 西表島における更なるオーバーツーリズム対策として、エンカル観光カレンダーなどにより観光者に予め情報が届く形で適切に情報発信を行う。また、各地域部会において地域関係者と合意形成を図りながら遺産価値の保全と適正な管理を行う。</p> <p>(4)- II 地元地域の観光事業者等や自治体にヒアリングを行い、地域に即した制度づくりに取り組む。</p> <p>(5) 国内希少種イリオモテヤマネコのロードキルの防止に向け、効果的な交通管理措置を検討し実施する。</p> <p>(6) 環境教育の実施にあたっては、地域行事等の開催時期を考慮するとともに、対象年齢等に応じた効果的なプログラムを検討する。</p>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
290,514	290,514	232,411	58,103	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は、公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定されており、妥当であったと考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から、額の確定時において証拠書類により確定しており、適切であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

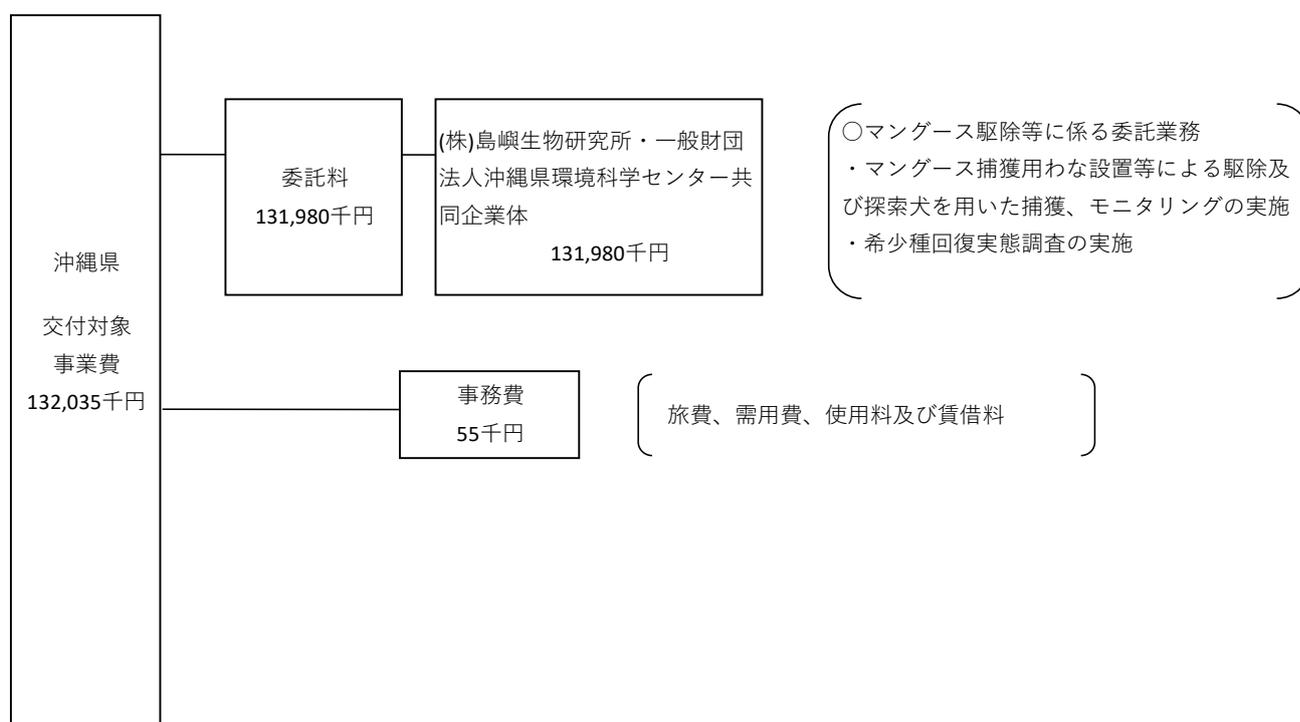
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	32	マングース対策事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）		1-(2)-7-②		
担当部課名	環境部 自然保護課	事業実施（予定）年度	H24～R13	年度	希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進		
事業内容	マングースの捕獲及び希少種回復調査を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度（ 年度）						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】		R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	138,569		138,569		132,211
		(b) 予算現額	138,569		138,569		132,211
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計 (b+d)	138,569	0	138,569	0	132,211
	執行額	B. 執行済額	138,279		138,124		132,035
		うち交付金充当額	110,623		110,499		105,628
		C. 次年度繰越額			0	0	0
	執行率 (%) (B/A)	99.8%		99.7%		99.9%	
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄島北部地域でのマングースを駆除・排除するための経費として、委託料及び事務的経費（旅費、需用費、使用料及び賃借料）を計上した。 ・執行率は99.9%であり、概ね計画的に執行できた。 						
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況				
	北上防止柵以南での捕獲作業の実施	目標	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
		実績	北上防止柵以南での捕獲作業を実施した	北上防止柵以南での捕獲作業を実施した	北上防止柵以南での捕獲作業を実施した	北上防止柵以南での捕獲作業を実施した	
	希少種回復実態調査	目標	希少種回復状況調査（STライン以北）の実施	希少種回復状況調査（STライン以北）の実施	希少種回復状況調査（STライン以北）の実施	希少種回復状況調査（STライン以北）の実施	
		実績	希少種回復状況調査（STライン以北）を実施した	希少種回復状況調査（STライン以北）を実施した	希少種回復状況調査（STライン以北）を実施した	希少種回復状況調査（STライン以北）を実施した	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・マングース捕獲作業対象地域における捕獲作業にて、285個体を捕獲した。 ・希少種回復状況調査を実施して、やんばる地域における希少種の生息状況を確認した。 						
成果目標（指標）及び達成状況	R6成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（〇〇年度）
	沖縄県北部地域におけるヤンバルクイナの推定生息範囲 220メッシュ以上	目標		200メッシュ	220メッシュ	220メッシュ	
		実績		221メッシュ	214メッシュ	232メッシュ	
	達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県北部地域におけるヤンバルクイナの推定生息範囲は232メッシュとなり、目標値を達成した。 ・沖縄島北部地域では、依然としてマングースが捕獲されることから、第一北上防止柵以北へのマングースの侵入を防ぐため、第一北上防止柵以南において捕獲を継続する必要がある。 					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・マンゲース捕獲強化によりマンゲースの生息密度は低減してきているが、いまだ残存している、わなに容易に誘引されない個体(トラップシャイ)の排除が課題となっている。 ・北上防止柵が設置できていない箇所(抜け箇所)において、マンゲースの再侵入が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のわなに容易に誘引されない残存個体対策として、探索犬の活用および化学的防除による排除方法の検証を引き続き行う必要がある。 ・第一北上防止柵以南のマンゲース個体数の低減を図るとともに、第一北上防止柵以北への再侵入を防ぐ必要がある。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・探索犬や、より効果的な新規わなの活用及び化学的防除手法の検討などにより、効率的な捕獲及びモニタリングを実施する。 ・第一北上防止柵以南のマンゲース個体数の低減を図り、第一北上防止柵以北への再侵入を防ぐため、第一北上防止柵と第三北上防止柵の間の範囲を中心として集中的に捕獲を実施する。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
132,035	132,035	105,628	26,407	0	0	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は、一般競争入札により決定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費用・用途については、事業目的達成の観点から必要性等について、額の確定時に証拠書類により確認しており、適正である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	33	外来種対策事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）		1-(2)-ア-②		
担当部課名	環境部 自然保護課	事業実施（予定）年度	H27～R13	年度	希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進		
事業内容	<p>沖縄県の生態系を保全するため、重点対策種（グリーンアノール、タイワンスジオ、タイワンハブ、インドクジャク、ニホンイタチ等）の捕獲等を実施する。</p> <p>沖縄県の生態系を保全するため、重点予防種（ヒアリ等）の侵入・定着防止を図る。</p> <p>県内において外来種対策に資する活動を行う団体に補助を行う。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度（ 年度）						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】	予算の状況	(a) 当初予算額	R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度
		(b) 予算現額	455,102		434,755		425,822
		(c) 増減額（b-a）	463,177		434,755		425,822
		(d) 前年度繰越額	8,075	0	0	0	0
		A. 計（b+d）	463,177	0	434,755	0	425,822
	B. 執行済額		438,829		434,035		424,608
	うち交付金充当額		351,063		347,228		339,686
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率（%）（B/A）		94.7%		99.8%		99.7%
	予算の状況の説明		<p>・予算額は、主に外来種対策行動計画の推進、グリーンアノール、タイワンスジオ、タイワンハブ、インドクジャク、ニホンイタチ等の駆除とヒアリ等のモニタリングに係る委託費及び外来種防除活動支援の補助金となっている。</p> <p>・執行率は99.7%であり、概ね計画的に執行できた。</p>				
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況				
	・重点対策種（グリーンアノール、タイワンスジオ、タイワンハブ、インドクジャク、ニホンイタチ等）の捕獲等の実施	目標	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
		実績	肉食系外来種の駆除の実施	重点対策種の駆除の実施	重点対策種の駆除の実施	重点対策種の駆除の実施	
	重点予防種（ヒアリ等）等のモニタリング等の実施	目標	・ヒアリの監視技術・防除技術の検討 ・港湾空港関係者等への研修	・重点予防種のモニタリングを実施 ・港湾空港関係者等への研修	・重点予防種のモニタリングを実施 ・港湾空港関係者等への研修	・重点予防種のモニタリングを実施 ・港湾空港関係者等への研修	
		実績	・ヒアリの監視技術・防除技術の検討 ・港湾空港関係者等への研修	・重点予防種のモニタリングを実施 ・港湾空港関係者等への研修	・重点予防種のモニタリングを実施 ・港湾空港関係者等への研修	・重点予防種のモニタリングを実施 ・港湾空港関係者等への研修	
	進捗状況説明	<p>・グリーンアノール、タイワンスジオ、タイワンハブ、インドクジャク、ニホンイタチといった重点対策種の防除を行った。</p> <p>・重点予防種（ヒアリ等）のモニタリングを行った。侵入リスクのある空港や港湾関係者、保健所職員等を対象にしたヒアリに係る研修を那覇市、名護市、石垣市、宮古島市で各1回実施した。</p>					

成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)	基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (〇〇年度)
			目標	実績	目標	実績
沖縄島北部地域でのグリーンアノール定着件数	目標		0件	0件	0件	
	実績		0件	0件	0件	
やんばる地域(国頭村、大宜味村、東村)での タイワンスジオ定着件数	目標		0件	0件	0件	
	実績		0件	0件	0件	
タイワンハブの名護市以北からやんばる地域 への拡散防止	目標		0件	0件	0件	
	実績		0件	0件	0件	
西表島でのインドクジャク定着件数	目標		0件	0件	0件	
	実績		0件	0件	0件	
来間島及び大神島でのニホンイタチ定着件数	目標		0件	0件	0件	
	実績		0件	0件	0件	
外来種対策を実施している市町村数	目標		9以上	9以上	9以上	
	実績		22	23	21	
ヒアリの定着件数	目標		0件	0件	0件	
	実績		0件	0件	0件	
達成 状況 説明	<ul style="list-style-type: none"> 重点対策種(グリーンアノール、タイワンスジオ、インドクジャク、ニホンイタチ)の駆除を行うことで、沖縄島北部地域、西表島、来間島及び大神島における定着件数0件を達成した。 タイワンハブの防除を行うことで、名護市以北からやんばる地域への拡散防止を果たした。 ヒアリについて、県内主要港湾周辺等においてモニタリング調査を行い、侵入及び定着が確認されなかったことから、目標を達成した。 県内で外来種対策を実施した市町村数は21あり、目標を達成した。 					

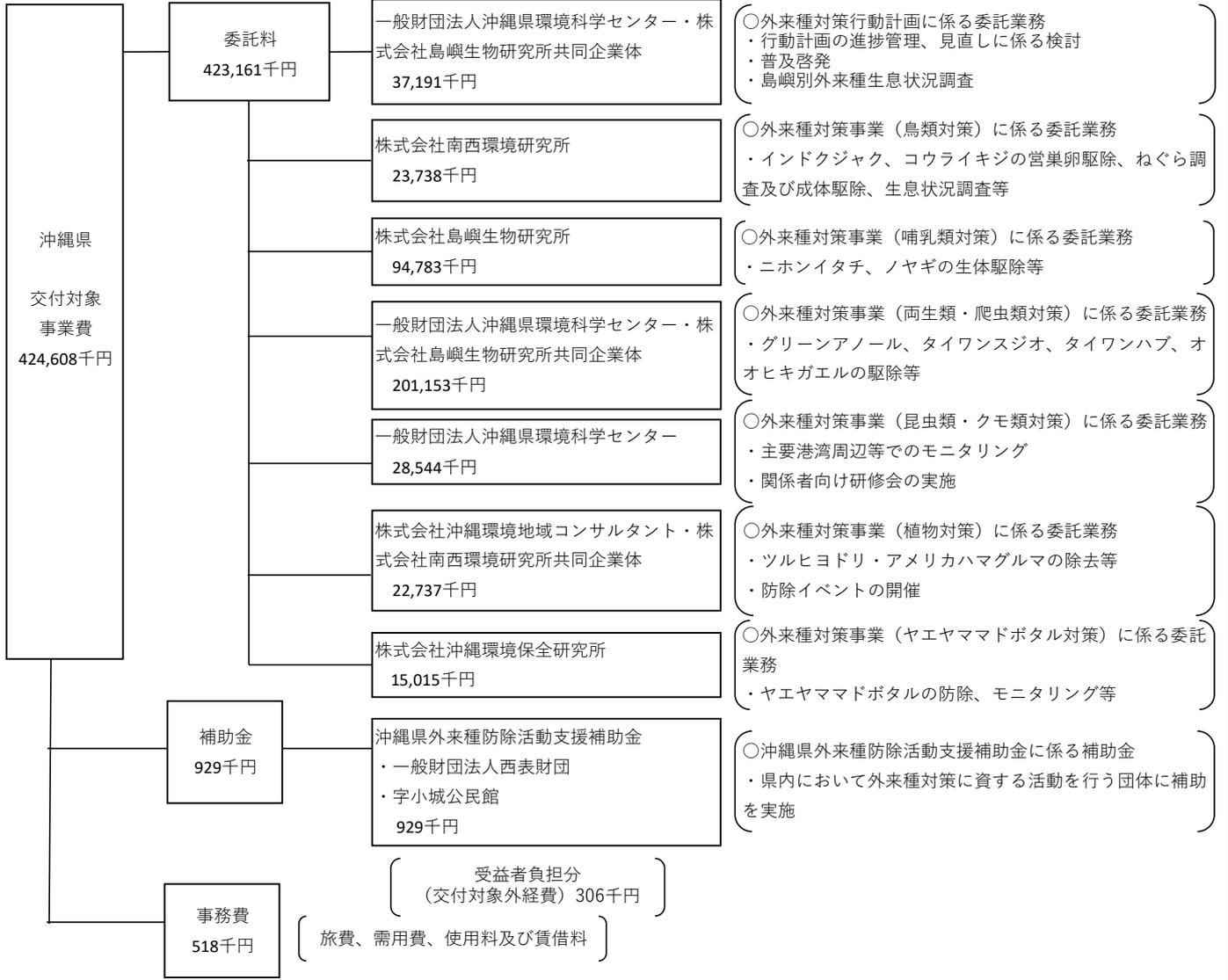
R6-No.33

取組の 検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 定着している外来種は、自然増加率を上回る防除を行わないと、生息数、生息密度、生息範囲を減少させることができない。 未定着の外来種は、常に物流等による侵入や、取扱事業者や飼養者等による逸出等によって拡散し、定着するリスクがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 定着している外来種のうち、沖縄県外来種対策行動計画において定めた重点対策種(生態系への影響が大きく重点的に駆除等を行う必要がある種)については、種毎の防除目標達成を目指して、自然増加率を上回る防除を行う必要がある。 未定着の外来種は、侵入・拡散があった際には早期発見、防除を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 有識者の意見等も踏まえ、重点対策種の捕獲等を実施する。 重点対策種について、住民参加型防除イベントの対象地域を拡大し、広範囲の地域住民による防除を促進する。 重点対策種の定着地域のうち、調査ができなかった地域についても、管理者等に立入り及び捕獲許可申請等を行い、防除ができるようにする。 効率的な捕獲やモニタリング手法について、随時検討し、有効性が認められれば採用する。 未定着の外来種についても、侵入・拡散のリスクのある関係者等へ情報提供や防除協力依頼を行い、侵入・拡散があった際には早期発見・防除を行う体制を構築する。 		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
424,914	424,608	339,686	84,922	0	0	306



資金の用途の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業受託者は、公募型プロポーザル方式の業者選定による随意契約を行っている。 ○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等、額の確定時において支出等に関する書類により確認したところ適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

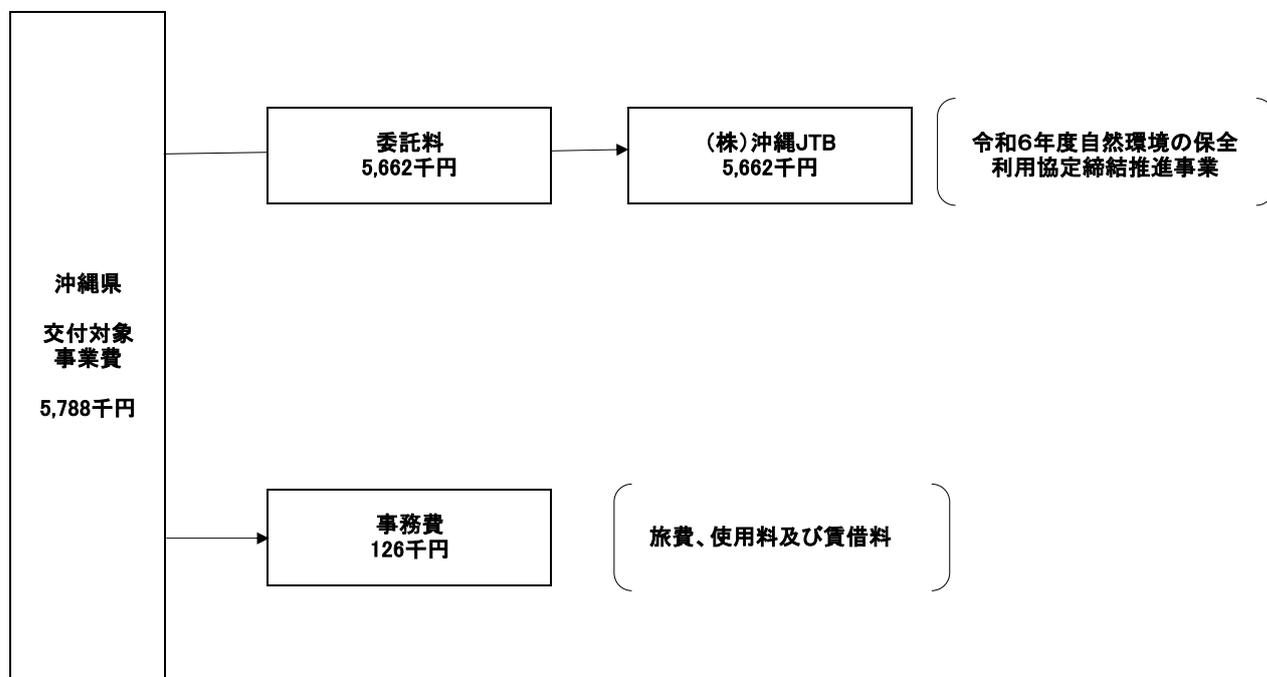
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	30	自然環境の保全利用協定締結推進事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	1-(2)-ウ-②			
担当部課名	環境部 自然保護課	事業実施 (予定)年度	R1~R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	環境保全の意欲の醸成		
事業内容	事業者間の保全利用協定の締結地域を増やし、地域の自主的な保全と利用の取組を推進していくため、主に以下の内容に取り組む。 ・協定締結に対する事務的、財政的支援 ・協定締結地域間の交流や情報交換、情報共有 ・利用協定候補地への勉強会の開催等						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	10,056		6,737		6,215
		(b) 予算現額	10,056		6,737		6,215
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	10,056	0	6,737	0	6,215
	B. 執行済額		9,850		6,401		5,788
	うち交付金充当額		7,880		5,121		4,630
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.0%		95.0%		93.1%
予算の状況の説明		・執行率は93.1%であり、主に補助金の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	・保全利用協定の具体的な締結支援	目標	ヒアリング・勉強会の開催	1件	1件	1件	
		実績	ヒアリング・勉強会を実施した	5件	8件	11件	
	・保全利用協定への財政的支援件数	目標	—	1件	2件	3件	
		実績	—	1件	1件	0件	
	・協定締結候補地との勉強会等参加者数	目標	—	50人	50人	30人	
実績		—	58人	32人	25人		
進捗状況説明	・新規あるいは継続した協定締結を支援するため、締結事業者ヒアリングを11地域で実施した。 ・財政的支援について、制度の周知不足等の理由から、実績なしとなった。 ・地域における勉強会(1地区9名参加)や、意見交換会(1回16名参加)を実施し、協定制度の認知度向上とエコツアー事業者や行政機関等からの意見交換を行った。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (〇〇年度)
	保全利用協定の締結数	目標		1件	1件	1件	
		実績		2件	1件	3件	
	達成状況説明	・現地における事業者ヒアリング等の実施により、令和6年度は目標を達成した。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	① 同一地区を利用するエコツアーガイド業者間の調整や、手続きの負担に見合う制度の魅力向上が重要である。	①地区毎に異なる課題に留意しながらも、エコツアーのフィールドとなっている地元とも連携し、保全利用協定制度の魅力と理解度の向上に向けて取り組む必要がある。
	② 補助金制度の対象者が限定的であって、保全利用協定の継続した締結に影響を及ぼすおそれがある。	②補助金交付要綱を見直し、財政的支援件数の増加を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
① 情報発信の手法を見直し、また、地元を巻き込んだ勉強会などにより、より一層の周知を図る。 ② 補助金交付要綱の改正により、保全利用協定締結事業者の取組みを後押しできる仕組み作りをする。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
5,788	5,788	4,630	1,158	0	0	0



資金の 使途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は、公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定されており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から、額の確定にあたり証拠書類を確認しており、適切であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	